

長野県言語聴覚士会ミニ研修会

その子にとって自然な話し方を守り、育てる

～私たち言語聴覚士が、
吃音のある人とその家族のためにできること～

2024年10月10日
東御市民病院 餅田亜希子



本日はお忙しい中研修会にご参加をいただき、 どうもありがとうございます

皆さまはそれぞれの立場で、これまでの指導・支援のご経験を通して、吃音についての知識や認識を様々にお持ちであろうと思います。今日は、それらの復習になる部分もあるでしょうし、新たな視点となるところもあるかもしれません。

今日の研修が吃音のあるお子さん、吃音のある人やそのご家族の支援のため、さらに研鑽を深め、実践につなげていっていただくためのきっかけ(出発点)となればこんなに嬉しいことはありません。

2

吃音臨床に取り組む

- 吃音の支援については、幼児期、学齢期、思春期・成人期と分けて解説されることが多いのですが、支援の核については年齢層を問わず共通の部分があります
- 発達性吃音の場合、小学生であっても、中・高生であっても、成人であっても、発吃は幼児期にさかのぼります
- 幼児期における支援から、その後の年代の支援にもつながる大事な部分を学ぶことができます
- 吃音臨床の入り口は初回面談です

幼児の初回面談の実際

<事例>

対象児：4歳6カ月 年少、男児

家族構成：小1兄、父、母、祖母の5人家族

来談者：母、本人

幼児の初回面談の実際

<生活および吃音の経過>

- 発吃は2歳後半ごろ、連発の話し方で始まった。
- 言語発達は順調。
- 3歳児健診で保健師に吃音の相談をしたところ「言いたいことがいっぱいあって口が追いついていないだけ、やがては治るので様子をみましょう」と言われた。
- 保育園には1歳から通っている。年少になったとき、クラスの担任保育士から「ときどき『あああ』って言っている時もありますが、これくらいの年齢の子どもにはよくあることです。お母さんがあまり心配しないことが大切。本人に気づかせてはいけなので吃音には触れないようにしましょう」と助言された。

幼児の初回面談の実際

<来室主訴>

- 日ごろは明るく、元気で、保育園にも喜んで通っている。本人はあまり気にしていないのではと思っていたが、先日、話している途中で言うのをやめてしまい、「なに？ 最後まで言って」と言うと、「だって言えないもん」と初めて泣いたのでびっくりした。
- 担任にこのことを話すと、「園ではそのようなことはないですよ」「ときどき、『ゆっくりでいいよ』『落ち着いて言おうね』と声をかけています」と返答された。また、「話し方の指摘をするような子はいません」「本人は元気におしゃべりしていて気にしている様子はありません」と言われた。このまま様子をみても良いのだろうか。

幼児の初回面談の実際

<生活および吃音の経過> 続き

- 様子をみている中で、吃音が消えたかのような時期もあればまた増えるといった波があり、最近では言い始めに「せーの」と小声で言ったり、一音ずつ区切って言ったり、身体を動かしてリズムを取ったりしながら言うようになった。
- 先日、4歳になったこともあり、希望して教育センターで言語相談を受けた。この日はあまり吃音が出ておらず、「ひどい状態ではないので、もう少し様子を見ましょう」「本人は気づいていないので吃音を意識させないようにしましょう」「話す力の成長と共に治ることが多いです」「お母さんがゆっくり話すようにしましょう」「ゆったりとした生活を心がけながら様子をみましょう」と助言された。

幼児の初回面談の実際

では、実際の面談の様子をお聴きください



フリー素材

初回面談の柱となるもの 1. 本人と

- 話し方について本人にきちんと尋ねる
 - 自分の話し方をどう考えているのかを確認する
 - 友だちから指摘を受けているかどうかについての訊き方
 - 本人への吃音ガイダンスを分かりやすい言葉で行う
- <吃音ガイダンスで欠かせないこと>
- *導入としての基礎知識(吃音の人は100人にひとり等、だけでなく)
- ① 吃音を伴う話し方の進展
 - ② 周りの人に知ってもらった方がよいことの理由(安心、だけでなく、進展を防ぎ、話しやすさにつながる)

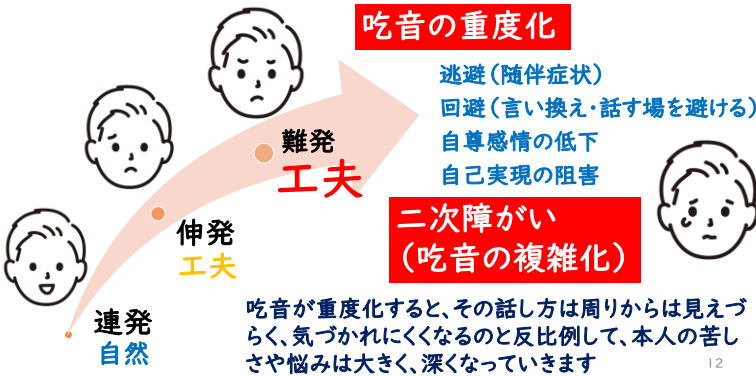
初回面談の柱となるもの 2. 保護者と

- 基本的な姿勢:
- 発吃時の状態(これまで;過去)を聴き取りながら、今の話し方(現在)について解説し、具体的取るべき対応と、そうすることでどのようなことが期待できるか(これから;未来)について説明・助言する。
- 具体的には...
- 来談に至るまでの経緯や不安な気持ちに傾聴し、受け止める
 - 初回面談からしっかりと吃音ガイダンスを行う

初回面談の柱となるもの 2. 保護者と

- <吃音ガイダンスで欠かせないこと>
- ① 吃音を伴う話し方を、連発、伸発、難発と区別する
 - ② 連発から難発へと進展(重度化)していることとその理由
 - ③ 進展している場合は、考えられる理由を踏まえて、話し方を楽で自然なとり方に引き戻すためにどうしていくのか
- 吃音について親子や家庭で話題する中で、本人も保護者も吃音を正しく理解する
 - 自然な連発を伴った話し方で過ごせる環境を作るため、園の先生や子どもたちにも正しく理解してもらう
- *不安や疑問はいつでも尋ねてよいこと、これから一緒に取り組んでいくことを伝える

吃音を伴う話し方と進展



I 『吃音臨床の手引き』

吃音臨床(相談・支援)のガイドが誕生!

2012年3月
吃音教育臨床研究会発足
第1回会議

2014年7月
日本吃音・流暢性障害学会
ガイドライン検討委員会に
知的・事業財産を移譲・第1回大会



日本吃音・流暢性障害学会HPから



誕生から12年!

ただいま改訂作業中
思春期以降も含めて

同じ見立て・方針を言ってもらえて安心

I 『吃音臨床の手引き』

『手引き』作成の目的

吃音臨床の底上げ
吃音臨床に取り組もうとする臨床家を増やし、相談窓口の拡大に
「同じ見立て・方針を言ってもらえて安心!」につながるように

『手引き』の内容

- 幼児期から学童期の初回面談の組み立て方
- I 面談・相談を始めるにあたって
 - II 主訴
 - III 問診

基本情報の提供の仕方
V 吃音のガイダンス



日本吃音・流暢性障害学会HPから

2 発吃すぐから始める理解推進・啓発のための協働



吃音の理解推進と啓発

まず本人に、
そして、保護者に、きょうだいに、先生、友達に、
吃音の「何を理解」してもらうのか

3 保護者・家族も支援されるべき対象

私の責任だから・・・
でも、これ以上周りから責められたら・・・
私がまずは変わらないと・・・



しつけ、叱り方、家庭環境・・・
早口、慌ただしい生活、こどもとかかわる時間がない
何かのストレスを与えているかもしれない
先生から「もっとゆったりした生活を」と言われている
なんとかしないといけない!だって私の責任だから!

4 将来を見すえた今への支援

- ・ 幼稚園・保育園、小学校、中学校時代は...
- ・ 吃音のある子どもが、自然に出てくる吃音をそのまま伴って話す方が楽であることを理解し、経験できる大切な場
- ・ 自分の話し方のことをまわりの人たちにも知ってもらった方が生活しやすいということ、**大人(保護者、先生方)に先導してもらって体験できる**貴重な時期
- ・ 周囲の人たちに理解してもらうために伝える「練習」の蓄積を通して、その意義を実感してきた子どもは、成長に伴い徐々に自分で説明ができるようになっていく
- ・ 吃音が継続しても、進展(重度化・複雑化)せずに、楽などもあり方で自分らしく生活しながら成長していく
- ・ 子どもの5年後、10年後、20年後を考えた時、園・学校時代の経験はとても大きな意味を持っている
- ・ **初回面談は吃音のある子どもとその家族の未来に通じる第一歩となる**

17

将来を見すえた今への支援

Eテレ ハートネットTV 「フクチッチ」

きつ音をテーマに放送されました

(1.29前編 2.5後編)





マイちゃん、テレビ信州

2024年3月19日

テレビ信州 news every、て吃音の特集番組が放送されました。

そのまの話し方でいいよー きつ音への理解深める取り組み続く ありのまま受け入れる優しい社会にー【長野】

2024年3月19日(木)





NHK for School

18

吃音を「知っている」から「正しく理解する」へ
さらに、「吃音の正しい知識を伝えていく」へ



これらの書籍は、吃音のある子どもをもつ保護者の方の多くが読まれ、「先生方にもぜひ読んでほしい!」という願いから、園や学校に寄贈されています。今日の学びを確実なもの、今日だけに終わらせず持続させるためにも、読んでいただければ心強いです。

19

先生方の正しい理解と実践によって長野県が、吃音のある子どもやその家族が安心して生活でき、その子の話し方のままで成長していける、そんな地域になりますように。

初回面談の様子を通して、吃音臨床において大切にすべきと思うことをご紹介させていただきました
「もっと吃音について学び、臨床に取り組んでいってみよう」

と思っていただけたら嬉しいです。

これからも、ご一緒に勉強していきましょう!

どうもありがとうございました



20